裂田溝46　散策コース表(6)

この度は、郷土史研究会の副会長を長年勤められた金丸又男氏が『一ノ井堰と裂田水路の慣行水利』と題した寄稿文を原文のまま紹介します。

一ノ井堰と、裂田水路の慣行水利について

金丸又男

この度は、一ノ井堰の構築や裂田水路の開削の歴史は触れることなく、水利組合がどの様な取り組みをして来たか慣行水利を見たいと思います。

筑前一の井堰と呼ばれた一ノ井堰も、昭和四十年代度々の洪水で各所に漏水や傷が激しくなり、昭和四十二年南畑ダムの完成により灌漑用水は平均して流れるようになりましたが漏水箇所の修理等に大変人手を要する様になりました。

昭和五十八年全面改修に着工し、昭和六十二年竣工しまして用水不足心配も無くなりました。

一ノ井堰水利組合は、各区より総代を選出してその運営に当たっています。

総代は、区の水田面積や負担金の徴収、井堰や水路の保全について協議し、更に用水が各区の水田に行き渡る様にします。

又、異常渇水で絶対量不足の場合は、下流区の申し出により協議して時水(時間給水)をして難を凌いで来ました。最後の年は昭和三十七年であったと記憶しています。

次は土木台帳及び土木図について述べます。一ノ井堰水利各区には土木台帳及び土木図があります。

一ノ井堰及び裂田水路の諸元は各区共通ですが、裂田水路より分水する小溝幅や小堰の高さ、各水田一筆毎に引く樋の内径等はそれぞれの区の規定により記入されています。

例えば、旧一ノ井堰は那珂郡岩戸村大字山田字茶屋の前、井洗堰、幅八十三間五尺四寸、打流五間、高さ二間三尺、その他付属する石垣の幅高さ等、又、仲区の例は岩戸村大字山田字茶屋の前より大字仲字炭焼き迄、用水路長さ千七百八十二間九寸幅平均二間とあり、この内仲区の分は三百十間でありその中の各樋管の内径、小堰の種類、高さ等、又、仲四十町歩を賄う取水口は方型の埋石樋は、高さ一尺六寸、幅一尺八寸とあり裂田用水路中央と対岸の前には樋の下限と同じ高さの定盤があります。

小井堰改修や災害復旧についても現在も基準として守られています。

次に明治二十七年当時の各区の水田面積を記します。

山田区	四十一町八畝十四歩
安徳区	二十町六反九畝十二歩
東隈区	二十一町八反八畝十二歩
仲　区	四十一町五反三畝二十歩
五郎丸区	二十九町二反五畝三歩
松木区	十三町六反二畝十歩
今光区	四町八反四畝二十五歩
※合計	百七十二町九反二畝三歩

台帳に記入されている各区の総代名

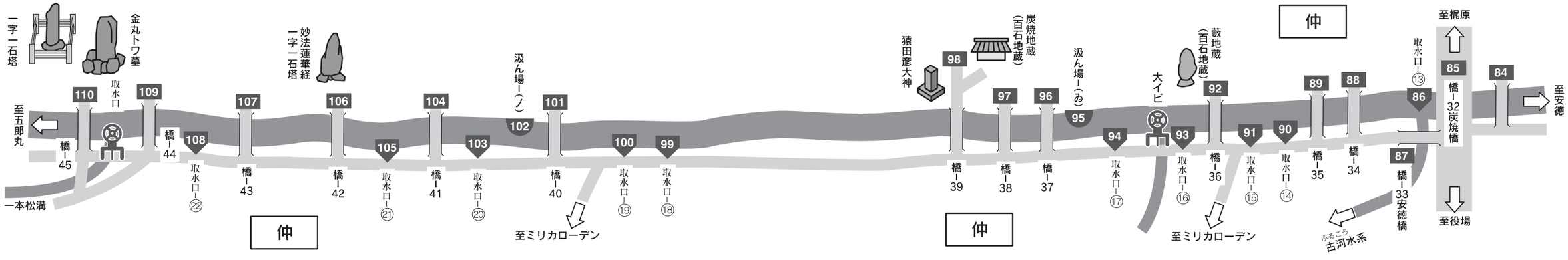
那珂郡安徳村大字仲	
総代　佐伯　籐吉	
〃　宇野　丈平	
〃　田村　重平	
明治二十七年五月安徳村	
村長　三宅　保太郎	
那珂郡安徳村大字東隈	
総代　日下部　久太郎	
〃　山本　栄一	
那珂郡安徳村大字五郎丸	
総代　藤崎甚五郎	
〃　藤崎　善六	
〃　山本　又市	
那珂郡安徳村大字松木	
総代　小森松次郎	
〃　小森千代吉	
那珂郡安徳村大字今光	
総代　籐　重吉	
〃　籐　又四郎	
那珂郡岩戸村大字山田	
総代　重松久次郎	
〃　柴田　甚市	
那珂郡岩戸村大字後野	
総代　川崎　房吉	
〃　柴田　甚市	
那珂郡岩戸村大字安徳	
総代　渡辺　千代吉	
〃　大神　久作	
那珂郡日佐村大字日佐	
総代　籐　久吉	
〃　籐　文吉	

総延長五、六粁ありました裂田用水も、下流は区画整理によって変わっています。全長を測量して不明のままの終点には、石碑を建てたいと思っています。

裂田溝No.6(仲地区)

裂田溝と周辺の史跡景勝85～109

No.	地域	No.	コースメモ	史跡メモ			
探訪107 裂田溝34	仲・現人神社周辺	85	橋－32 炭焼橋	現人神社境内と周辺	・現人神社	仲地区 百石地蔵 6基	①藪地蔵
		86	取水口－⑬古河水系		・六一森		②炭焼地蔵
		87	橋－33　安徳橋		・天正14年(1586)の戦いで亡くなった神官の墓		③袈裟丸地蔵跡(今朝丸)
		88	橋－34		・猿田彦大神		④上城戸(上方)夫婦地蔵とも言う
		89	橋－35		・猿田彦命(中木戸より)		⑤中城戸(中木戸)
		90	取水口－⑭		・ナカモリの塚		⑥中香寺地蔵(中光寺)
		91	取水口－⑮	・	権現塚古墳の側壁(那珂川中学校前庭に設置)		
		92	橋－36(工場への橋)	・	毘沙門天	86	取水口－⑬(古河水系)
		93	取水口－⑯大イビ(仲の田んぼへ)	・	那珂川八十八ヶ所78番札所　如意輪観音	仲地区へ流れる	①安徳橋
		94	取水口－⑰	・	猿田彦大神(中光寺)		②丸太橋と東隈への堰
				・	仲遺跡		③仲への堰
探訪108 裂田溝35	炭焼地区周辺	95	汲ん場－(ね)	96	橋－37		④古河にかかる橋
		97	橋－38	98	橋－39(側に猿田彦大神あり)		⑤水車屋跡
		99	取水口－⑱	100	取水口－⑲		⑥鳴水橋
		101	橋－40	102	汲ん場－(ノ)		⑦那珂川へ流れ込む
		103	取水口－⑳	104	橋－41	史跡メモ	
		105	取水口－㉑	106	橋－42	・	猿田彦大神(炭焼)
		107	橋－43	108	取水口－㉒	・	炭焼地蔵(百石地蔵の一つ)
		109	橋－44			・	炭焼地蔵集敬堂
						・	妙法蓮華経一字一石塔
						・	皆済状(慶長3年(1598))(石田三成から下村の百姓へ)

一の井堰からの眺望　南西に連なる山々

「成竹山」:標高480mの展望所からの遠景は素晴らしく、眼下に那珂川町、福岡市街、遠く玄界灘等が一望できる。
「大丸山」:いにしえより「雨乞い」の神事が行われていた。戦国期においては「鷲ヶ岳城」の水源として大事な山であった。
「鷲ヶ岳城跡」:天文19年(1550)大鶴宗雲によって築城。天正9年(1581)筑紫、龍造寺に攻められ落城。筑前大友五城の一つで由緒ある城である。